

としょかんぼう

東北福祉大学図書館報

Tohoku Fukushi University Library News

No.20

TFUL NEWS

2014.Dec



— 祝 としょかんぼう 20号を記念して —

今回のとしょかんぼうは、記念すべき20号を迎えました。

この度、20号企画の一環として、図書館キャラクターを募集し、図書館の広報活動に活かそうと考えました。応募総数25作品の中から、学生や教職員の皆さんから投票の結果、「ぶくてん」が選ばれ、「としょかんぼう」20号でお披露目することとなりました。

これから図書館の広報担当として「ぶくてん」が至るところに登場することでしょう。

また、「としょかんぼう」は、学生の皆さんが必要とする図書館の情報をこれからもお届けいたします。新しく決まった図書館キャラクター「ぶくてん」と、「としょかんぼう」をどうぞよろしくお願ひします。

さて、早速「ぶくてん」のプロフィールをご紹介していきます。

プロフィール

名前：ぶくてん

『背中に7つの水玉模様がある
てんとう虫'の妖精。』



〈特 技〉

みんながしあわせな気持ちになるように、その人にあった本を運ぶこと。

〈好きなもの〉

本（でも難しい本を読んでいると、目が回ってくることも・・・）、
花、子平まんじゅう



〈苦手なもの〉

雨。雨の日は、家にこもって本を読んでいます。

〈キャッチコピー〉

「あなたにも本としあわせ運びます。」



20号を
記念して

～ 『としょかんぽう』への期待 ～

図書館長 高橋 美由紀
『としょかんぽう』が20号に達したことを、館長として心から喜びたい。創刊号

冒頭の「館報復刊によせて」を読むと、1990年に『TFUL news』という図書館の広報誌が創刊されたものの7号で挫折、それに対する館員の思いが本誌発刊の原動力であったことがわかる。「図書館情報をソフトな感じで提供し、図書館を利用する人のための案内情報源として、未永く発行できればと願っております」という言葉が、その思いを端的に示している。

本誌は、図書館の利用案内やお知らせ、教員や司書からの図書を紹介、司書のつぶやきなどによる館員の利用者への本音等、楽しい誌面作りがなされてきている。近年では、紹介される書籍も、利用者である学生の学問的な道案内となるようなもの、変貌する社会や世界の動きと大学での学びとの関連を意識したものなどが目につくようになった。

今、大学教育は大きく変わろうとしている。学生諸君の主体的な学びを引き出すアクティブラーニングの推進である。その中で図書館の担うべき役割がいっそう増大するとともに、教員のみならず、大学職員が学生の学びの支援に、より積極的に関わることが求められている。それだけに、20号を迎えた『としょかんぽう』が今後果たすべき役割もますます大きくなるに違いない。今後の本誌の継続と発展を心から願う所以である。

表彰式

- 国見学祭 -

～ 図書館キャラクター発表
& インタビュー ～




大賞 工藤 祐美さん

幸せを運んで
きてくれると
いう意味がある、七星
てんとう虫をモチーフ
にしました。本を読む
人たちが、幸せな気持ち
になってほしいとの
願いがこめられていま
す。



館長賞 斎藤 香澄さん

大学の3つの
ハートマーク 
をモチーフにしました。
仏教の「捨身飼虎(しゃしんしこ)」、自己犠牲の精神を参考に作りしました。

大賞 工藤祐美さんと
館長賞 斎藤香澄さんに
キャラクターについて
聞いてみました。



～ 料理本は語る ～

昨今はいろいろな本の賞がありますが、ありそうでなかった料理本の大賞がこの秋発表されました。

賞の名前は「料理レシピ本大賞 in Japan」。この賞は書店から料理本の新たな定番を発掘しようとの狙いで、書店の有志らが創設しました。

記念すべき第一回料理部門は「常備菜 / 飛田和緒」、お菓子部門は「まいにち食べたい“ごはんのような”クッキーとビスケットの本 / なかしましほ」が大賞に輝きました。

最近の料理本は丁寧に出汁からとるような本格的なものから、時短料理まで多くの種類があります。また、著者もプロの料理人以外に芸能人であったり一般の主婦であったりと様々です。

ここ数年で種類が豊富になった気がしていたのですが、多種多様なライフスタイルに合わせて出版されているものが多いのではないのでしょうか。

自宅にある料理本を改めて眺めてみると一人暮らしを始めて買った一般的な和食の料理本、結婚して買った献立の料理本、子どもが生まれて買った時短料理の本と、そのときそのときの自分のライフスタイルに合わせた料理本を買っているのを感じました。

たかが料理本、されど料理本、家に並ぶ料理本は意外と自分のこれまでの人生を反映しているかもしれません。(雑誌係：菅原 裕生)



『常備菜』
飛田和緒著
主婦と生活社
所在：
ベストセラー
コーナー

『まいにち食べたい“ごはんのような”クッキーとビスケットの本』
なかしましほ著 主婦と生活社



所在：
ベストセラー
コーナー

レシピ
大賞

～ 『モモ』 ～

「時間がない」、「忙しい」が口癖の学生に
改めて読んでもらいたい一冊。

ブック
レビュー

健康科学部 医療経営管理学科 河村孝幸

物語の主人公、モモは市街地のはずれにある廃墟に住むようになります。やがて、人々はどういうわけかこのモモに会いに来るようになります。それは彼女の持つ不思議な能力、それは現代人が失いつつある、相手の話を「聴く」力でした。モモに話をしているうちに、その自身に潜む気持ちや考えが浮びあがってくるので、希望や勇気を得て、元気を取り戻していきます。

ところが、街は「灰色の男たち」によって変貌します。大人たちは時間に追われ、本来は大切な家族や友人との語らいの時間までもが無駄な時間として削られ、お金と名声のために、たくさんの仕事を短時間に終えるためにせつかに動き回っています。人々はやがて、不機嫌な、くたびれた、怒りっぽい顔、とげとげしい目つきへと変わってしまいます。子供たちは自由な遊びを奪われ、創造性のない玩具を買い与えられ、「将来のためになる」勉強を強制されます。「人間が時間を節約すればするほど、生活はやせ細りなくなってしまう」、そんな荒廃した人々の心に時間（＝生きること）を取り戻すために、灰色の男たちに立ち向かうモモと人々の運命はいかに。

作者のミヒャエル・エンデは旧西ドイツの児童文学作家で、1973年に『モモ』、1979年には、映画「ネバーエンディングストーリー」の原作である『はてしない物語』を刊行しています。彼の作品には

探偵小説のようなスリルとファンタジー、そして時代への鋭い風刺が含まれています。時間に追われる生活を強いられる社会へと羽ばたく前に、エンデの「大人の童話」を読んでみませんか。



『モモ』
ミヒャエル・エンデ著
岩波書店
所在：学生閲覧
コーナー
請求記号：937.7/エン
/学閱

司書の

プロムナード

～ 映画にもなった一冊
魂を宿した "人"とは ～

図書にも疎開があったことをご存じだろうか？
この本の舞台は、昭和 19 年～20 年の太平洋
戦争が激化する中、東京都で行われた図書の疎
開について書かれた 1 冊である。

当時、図書の疎開は国策として行われ、日本全国の図書館でも同
様の作業が実行された。宮城県図書館においても、愛子や芋沢の土
蔵に約 9000 冊を疎開させている。

さて、'疎開した図書'と言っても、本に足があって自ら歩く、ある
いは電車に乗って疎開をしたというわけではない。もちろん、疎開
事業には多くの人に関わり、自らの命も危険に晒されながら、40 万
冊もの図書を疎開させたのである。あるときは車に図書を山積みし、
あるときは大八車や電車を使い、それらが使用出来なくなると、今
度は歩いて 50 キロの道のりを図書を背負って運んだのである。

この本は、同じタイトルで映画化もされた。本の著者でもあり、
映画の監督でもある金高氏は次のように述べている。この疎開作業
の中心人物であった当時日比谷図書館の館長であった中田邦造氏が
一貫して守りたかった本は、言い換えれば「人」ではなかったか、
疎開した 1 冊 1 冊の本は、魂を宿した「人」なのであると。その
40 万の「人」たちは、東京都立中央図書館の特別文庫室などに現存
している。

私たちはこうした歴史の事実から多くを学ばなければいけない。
(目録係：八巻 千穂)



『疎開した四〇万冊の図書』

幻戯書房 金高謙二著

所 在：学生閲覧コーナー

請求記号：O16.213

図書館からのお知らせ

- ☆ 冬季休業中の長期貸出
期 限：平成 26 年 12 月 15 日 (月) ～
返 却 日：平成 27 年 1 月 7 日 (水)
対象資料：図書
* ベストセラーも含む、貸出冊数は通常と同じ。
- ☆ 展示のお知らせ
丸善 AER 店でライブラリーサポーターによる選書ツアー
を行いました。
下記の日程で展示を行いますので、ぜひご覧ください。
期間：1/8 (木) ～ 2/6 場所：2F フロア
- ☆ ブラウジングルーム 一般雑誌の一部変更について
平成 27 年 1 月から新しい一般雑誌が入ります。
ぜひ手にとってご覧ください。

－ 編集後記 －

今回は、ついに No.20 を迎え、高橋美由紀館長からお祝いのお言葉
を頂きました。また、河村先生にブックレビューを書いて頂き、誠にあ
りがとうございました。前号とは誌面を変更しましたが、いかがでした
でしょうか。

さて、先日ライブラリーサポーターによる選書ツアーに同行しまし
た。図書館に所蔵が少ない分野を選んだり、実習先で利用が見込まれる
本や絵本を選んだり、それぞれ考えて選んでいました。最近ではネットで
本を探すことが多い私ですが、実際に本屋さんで選ぶのは、新たな発見
もあり楽しいもので、つい料理本を購入してしまいました。学生の皆さん
も図書館に来て実際に本を選んだり、展示を見たりして、新たな発見
や楽しむことをぜひ味わってみてください。 <五十嵐・菅原・八巻>

東北福祉大学図書館報「とじょうかんぼう」No. 20 2014 年 12 月
編集・発行 東北福祉大学図書館 〒981-8522 仙台市青葉区国見 1-8-1

TEL:022-717-3319 FAX:022-717-3339
E-mail:etsuran@tfu-mail.tfu.ac.jp
<http://www.tfu.ac.jp/libr/>